

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

今回は、マネジメントコースとはなんぞやという疑問にお応えしたいと思います。

マネジメントコースとは、地方自治体から1年間自治大学校へ派遣され、8ヵ月間は教務部や教授室で総務省職員とともに業務に従事し、4ヵ月間は地方自治体から参加する一般の研修生達と一緒に基本法制研修A、第1部課程研修を受講するというものです。

私は4月から10月上旬まで教務部で業務したのち、基本法制研修Aを受講し、現在は第1部課程研修のまっただ中にいます。1月末に第1部課程を卒業した後は、残り2ヵ月間、再び教務部で業務に従事することとなります。

マネジメントコースの意義は、大きく分けて2つあります。

まず、教務部や教授室で実際に勤務することで、これまで各自治体で長く働いてきて培った仕事観を省みる機会となります。総務省の職員と協力しながら仕事をすることで国のスピーディな仕事観や勘所を学ぶことができます。

次に、1年間という長期間、離れて暮らすことで改めて家族や友人、職場の同僚に感謝の思いを抱くとともに、自分という人間と向き合う絶好の機会となります。限られた時間をどう過ごすかは各人に委ねられています。勉学に勤しむも東京近郊でしか体験できないことに重きを置くも共同生活に傾倒するもすべて自律進取の精神に委ねられています。

マネジメントコース生の私は3月末まで自治大に残ることになるので、1月末の卒業式の日には他の研修生を万感の思いで送り出すこととなります。おそらく2月～3月は心にポツカリと穴が空いたような気分がさいなまれるでしょう。地元に戻った際に恩返しができるよう残りの限られた時間を自覚し、有意義に過ごしたいと思います。

(S.T)



(政策立案演習のメンバーとともに)